

## 2022年度 海洋問題演習 実施内容

学問分野横断的な思考の獲得および政策立案・問題解決能力を涵養する応用型の教育科目であり、海洋に関わるさまざまな政策課題への総合的なアプローチを具体的課題に即して学ぶことが目的である。海洋に関わるトピックについて、各分野の研究者及び実務経験者から講師を得て、様々な角度からの議論を展開する。ケーススタディーという形を用いることで、専門の違いにとらわれず、問題解決に必要な知見を駆使して、受講者自らが課題解決の方策・政策を立案することを目指す。

S セメスターは、海洋における地球的問題群の解決に向けた取り組みの中から、「海洋ゴミ」「海洋再生可能エネルギー」「マリンバイオセキュリティ」「地域創成と海」「世界にコミットする問題発掘とその具体的対応行動」の5つのトピックを取り上げ、それぞれ学内外から第一人者を招聘して講義形式で進め、A セメスターはいくつかにテーマを絞って議論を中心に演習を進める。

### 1. 海洋ゴミ・プラスチック問題

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| 第1回 | 4月18日 | 海洋ゴミ 何が？どこから？どうする？<br>鹿谷麻夕(しかたに自然案内 代表/琉球大学 非常勤講師)  |
| 第2回 | 4月25日 | 使用済みプラスチック・海ゴミ問題の課題解決に向けて～グローバル・アライアンス・アプローチ<br>穴田 武秀(廃棄プラスチックを無くす国際アライアンス Alliance to End Plastic Waste) |
| 第3回 | 5月9日  | バイオプラスチックを取り巻く最近の動向と今後の展望<br>諏訪 頼正(一般社団法人 発明推進協会 主任研究員)   |

### 3. マリンバイオセキュリティ

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| 第4回 | 5月16日 | 水生動物における感染症の特徴と侵入・蔓延の歴史と現状<br>良永知義(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授) |
|-----|-------|---|

### 2. 海洋再生可能エネルギー

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| 第5回 | 5月23日 | 2050年ネットゼロ社会に向けた洋上風力の役割<br>工藤拓毅(一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 理事) |
| 第6回 | 5月30日 | 洋上風力発電に係る法制度の整備<br>諏訪 達郎(内閣府総合海洋政策推進事務局 海洋政策調整官)        |

### 3. マリンバイオセキュリティ

|     |       |  |
|-----|-------|--|
| 第7回 | 6月6日  | コイヘルペスウイルス感染の侵入、蔓延、現状/<br>マボヤ被囊軟化症の国内侵入と疾病の現状<br>佐野元彦(東京海洋大学 海洋生物資源学部門 教授)<br>熊谷明(海洋生物資源学部門宮城県水産総合技術センター 副主任研究員)                         |
| 第8回 | 6月13日 | OIE水産動物衛生戦略(OIE Aquatic Animal Health Strategy)について/<br>水生動物における防疫のための国内制度<br>釘田博文(世界獣疫期間(OIE)アジア太平洋事務所 代表)<br>良永知義(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授) |

### 4. 地域創成と海

|      |       |  |
|------|-------|--|
| 第9回  | 6月20日 | 人口20人の限界集落で始めた漁業起点の地域おこし<br>錢本 慧(合同会社フラットアワー 代表)           |
| 第10回 | 6月27日 | 小さな水産加工会社・原料産地が現代のグローバル市場で生き残るためには？<br>鈴木 崇史(鹿児島大学 水産学部助教) |

### 5. 世界にコミットする問題発掘とその具体的対応行動

|      |       |  |
|------|-------|--|
| 第11回 | 7月4日  | カーボンニュートラル実現に向けたブルーカーボンの役割と貢献<br>桑江 朝比呂(海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 沿岸環境研究グループ長) |
| 第12回 | 7月11日 | ブルーカーボンに係る国際動向と日本の貢献可能性<br>渡邊 敦(笹川平和財団 海洋政策研究所 海洋政策研究部 主任研究員)                |